

関西スタディツアー実施

「能動的な学び」を大切にするまちなか鳳雛塾では、塾生たちが自身の将来像を具体的に描けるよう、様々な機会を提供しています。この夏、その一環として、8月24日からの2日間で関西スタディツアーを実施しました。塾スタッフが引率する中、生徒たちは自身のコンフォートゾーンから飛び出し、能登の外の世界に触れる貴重な経験をしました。

大学のキャンパスと暮らしを体験する旅

ツアー初日、生徒たちは近畿大学の広大な東大阪キャンパスを訪れました。最新の研究施設や充実した学生生活を送るための設備、そして数万人規模の学生が行き交う活気に満ちた雰囲気に触れ、大規模大学ならではのスケール感を肌で感じました。さらに、2025年開催の大阪・関西万博の会場を見学し、未来の社会を創造するダイナミックな動きを間近に感じ取ることで、自身の将来の可能性を大きく広げることができました。

翌日は、歴史と文化が息づく京都へ。立命館大学の衣笠キャンパスを訪れ、落ち着いた雰囲気の中で学びの場を見学しました。近畿大学とはまた異なる、伝統ある大学の学風に触れることで、生徒たちは大学の多様性について理解を深めました。

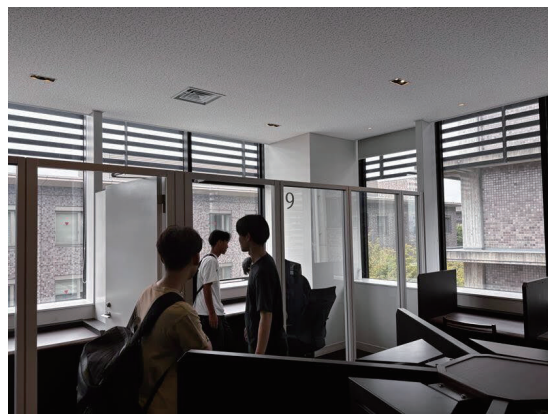
また、単にキャンパスを見るだけでなく、京都の街並みを散策し、実際に学生が活動する環境を体験しました。活気あふれる大阪の街、そして風情ある京都の街。それぞれの街の持つ独特な空気を感じ、将来の生活を具体的にイメージすることができました。

将来のビジョンを鮮明に描くきっかけに

このツアーは、単なる見学旅行ではありません。多様な大学の雰囲気や、それぞれの街が持つ文化に触れたことは、生徒たちが「どのような場所で、どのような学びをしたいか」を考える上で、大きな財産となりました。



▲法学部棟（存心館）法廷教室



▲キャンパス見学

総合型選抜対策！能登高校の学びが未来を拓く

近年、大学入試の多様化に伴い、総合型選抜（旧 AO 入試）が全国的に広がりを見せています。学力試験だけでなく、受験生の個性や学びへの意欲を多角的に評価するこの入試方式は、能登高校生が持つ独自の力を存分に発揮する絶好の機会です。まちなか鳳雛塾では、そんな総合型選抜に特化した対策を塾生に提供しています。

能動的な学びを評価する総合型選抜

総合型選抜で特に重要視されるのは、教科学力だけではなく、高校生活での学びの経験そのものです。例えば、慶應義塾大学 SFC（総合政策学部・環境情報学部）の総合型選抜や、法政大学現代福祉学部の「まちづくりチャレンジ自己推薦入学試験」では、高校までの活動を伝えるための資料や、大学での学び、そして卒業後のビジョンを明確に示す志望理由書が求められます。さらに、ディスカッション形式の面接が課されることも多く、自分の考えを論理的に表現し、他者と協調する力が問われます。

能登高校の「総合的な探究の時間」が最大の武器に

こうした総合型選抜の対策には、能登高校で取り組んでいる「総合的な探究の時間」が役立ちます。地域社会と連携しながら課題を発見し、解決に向けて実践的に取り組む能登高校の探究活動は、大学が求める「社会と関わりながら実践的な学びを得る力」そのものだからです。

まちなか鳳雛塾のスタッフは、単に指導するだけでなく、塾生一人ひとりと丁寧に向き合っています。志望理由書の作成においては、生徒たちの探究活動や日々の学びの中から、説得力のあるアイデアを一緒に探し出し、何度も添削を重ねます。また、ディスカッション形式の面接に向けては、実践的な練習を繰り返し、自分の考えを自信を持って伝えられるよう伴走しています。

単なる知識の暗記に終わらない、自ら考え、行動する能登高校での学びは、これからの時代を生き抜くために必要な資質を育むだけでなく、未来の可能性を広げる大学入試の力強い武器となるのです。

Project COLORS：癒しの空間を創り出す水槽プロジェクトが完成！

以前より ProjectCOLORS 水槽班が取り組んでいたアクアリウム作りですが、生きものを入れて、ついに水槽が完成しました。餌やりからポンベの交換まで、塾生が手入れをしています。塾内にアクアリウムがあるだけで、雰囲気が明るくなりますね。塾生からも「かわいい」と評判です。



▲餌やりをする塾生



▲完成したアクアリウム

おしらせ

まちなか鳳雛塾では、週1回程度を目安として、中学生対象の自習開放日（無料）を設けています。今月の中学生向け自習解放日は10/6(月)10/20(月)です。